

高校人国記

広島大学付属高校(広島市南区)①

各分野率いる 多彩な顔ぶれ



正門。中央の講堂は旧制
広島高等学校時代に建て
られた。被爆建物で国有
形文化財にも指定され同
校のシンボリック的存在



＜校名＞広島大学付属高等学校
＜所在地＞広島市南区翠1の1の1
＜校長＞鈴木由美子広島大学大学院
教授(29代目)＝「校長」の名称は新
制高校になった第8代任期途中から。
旧制中学時代は「主事」
＜クラス数＞各学年5クラス
＜生徒数＞602人

＜校名の変遷＞1905(明治38)年、
広島高等師範学校附属中学校として開
校▽49(昭和24)年、広島大学広島高
等師範学校附属高等学校▽52(同27)
年、広島大学教育学部附属東千田高等
学校▽55(同30)年、広島大学教育学
部附属高等学校▽78(同53)年、現校
名に

＜校章＞制定時の資料はないが、広
島高等師範学校の校章「菊」を受け継
いだものの、皇室へ敬意を表するため形
が似ている「旭日」と言い習わしてき
たと推定されている。

明治後期、広島高等師範学校(広
島の前身の一つ)の付属中学とし
て開校して116年。戦前は東京高
等師範学校(現筑波大)付属中学と
ともに全国で2校しかない文部省
(当時)直轄の旧制中学として、戦
後は国内有数の進学校として多くの
人材を輩出した。卒業生は1万6千
人を超え、各分野で指導的な役割を
果たす人も多い。学術・教育の分野
から紹介する。

万葉集研究の第一人者で文化勲章受
賞者、そして令和の元号の考案者とされる中
西進(91)は1942(昭和17)年から2年
間在籍した。「いい教育を受けたと思う」
後の広島大教授藤原与一からまず指摘され
たのは「姿勢が悪い」。「ら行変格活用を
書け」という試験問題に自信を持って「ら
・り・り・る」と書いたが「X」。「ら」
の縦の線が短くて「ろ」に見えたからだっ
た。「一番基本のところが学んだような気
がする」

大学などへ栄転する教師が多く、みんな
誇りを持っていたという。鉄道省(現国土
交通省)に勤める父が東京へ転勤した後、
寄宿舎で5カ月間暮らし、休日には独り本
を読んだ。そんな日々を「人生において最
初の幸いなターニングポイントだった」と
振り返る。44(同19)年に東京都立武蔵中
学(現武蔵丘高)へ転校。東京大へ進み大
阪女子大や京都市立芸術大の学長などを務
めた。

自然科学では宇宙航空研究開発機構(J
AXA)名誉教授で「宇宙教育の父」とし



万葉集研究の第一人者で文化
勲章を受賞した中西進

一番基本のところを学んだような気がする



的川泰宣

て知られる的川泰宣(78)や国立天文台長を
務めた観山正見(69)、東京理科大学名誉教授
の化学者破合憲三(70)、元東京工業大学学
長の伊賀健一(80)たち多彩な顔ぶれがいる。

「高校の雰囲気はすごく自由。先生は自
分たちを信じてくれていると、生徒は分か
つていた」と的川。生徒会長として会誌を
創刊し受験勉強の功罪を記事にしたこと
も。「クラブ活動の予算を平等に人数割
り」と提案すると、全国屈指の強豪だった
サッカー班(部)から猛烈的な抗議を受けた
が教師からは何も言われなかったという。
東京大で日本の宇宙開発を先導した系川
英夫に師事。宇宙工学者として日本初の人
工衛星「おおすみ」など数々の衛星開発に
関わった。系川から「人間は無理によい方
へ導こうとする」と聞かされたことをするもの
だ。邪魔されなければ育つ」と言われ思い
出したのが高校時代だったという。



観山正見

観山も「二人一人の学生の自覚に任せら
れており、自分で勉強をやる気にならない
と書いているところもあつた」とい
う。部活はテニス。高校総体出場へあと
一歩まで進んだ。本は週に数冊のペースで
読んだ。数学の教師から教わった「頑張れ
頑張れ、自信は後から付いてくる」という
意味の英文を座右の銘としている。東広島
市の長門寺の住職でもある。



破合憲三

破合は高校時代「学問に対する興味を大
いにそそられた」という。各教科とも教師
の専門知識が豊富だったからだ。東京大へ

自由な雰囲気。先生は生徒を信じてくれていた



長谷部恭男

進學。不斉自己触媒反応(破合反応)を発
見した。ノーベル化学賞候補と報道された
こともあるその発見とは。「生命を構成
する化合物には、分子の構造が実像(右手
型)と鏡像(左手型)の関係にある2種類
のタイプからなるものが多く、生物のアミ
ノ酸は全て左手型であるなど偏りがある。
その左手型の有機化合物が、自らを触媒と
して自分を作り増殖することを発見した」
のであり、生命の起源探求にもつながると
される。

長谷部は「暇があれば本を読みふけつて
いた」と言い「面白くない授業は時折サボ
って近くの喫茶店でコーヒーを飲んだりし
たが、それで怒られたりしたことはない」。
後輩へは「高校も大学も、大人になると考
えられないほど時間の自由な時代であるこ
とを伝えたい」と話す。現在は早稲田大教
授。中国新聞「今を読む」欄などで現代政
治に鋭く切り込む。

辻村は国立公立大学法学部で初の女性憲法学
教授となった。水本は東京大へ進み朝日新
聞記者を経て現職。核廃絶へ向け積極的に
発言を続ける。社会科学では他に広島大副
学長や広島経済大学学長を歴任した計量経
済学の前川功一(77)、元広島経済大学学長で
、同大を運営する石田学園の理事長石田恒夫
(73)がいる。

次回(2月5日)に掲載します。

客員編集委員・富沢佐一
敬称略

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って
高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各
校の情報をメールなどでお寄せください。
宛先は〒730-0867 広島市中区土橋町7
の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。
メールは、bokou@chugoku-np.co.jp